

船舶事故調査報告書

平成28年9月29日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（岸壁）
発生日時	平成28年4月16日 14時13分ごろ
発生場所	徳島県徳島小松島港第1区 <small>おきのすそと</small> の沖洲外岸壁 徳島沖の洲導流堤灯台から真方位009°300m付近 (概位 北緯34°03.2′ 東経134°35.9′)
事故の概要	旅客フェリーフェリーびざんは、着岸作業中、岸壁に衝突した。 フェリーびざんは、右舷船尾部外板の凹損等を生じ、岸壁は、防舷材の破損等を生じた。
事故調査の経過	平成28年5月16日、調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	旅客フェリー フェリーびざん、12,641トン 142528、オーシャントランス株式会社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
乗組員等に関する情報	船長、一級（航海）
負傷者	なし
損傷	本船 右舷船尾部外板に凹損及び防舷材に破損 岸壁 防舷材及びコンクリートに破損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 6、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 高潮時
事故の経過	本船は、徳島小松島港沖洲外岸壁（以下「沖洲外岸壁」という。）に右舷着けで着岸作業中、陸岸に向けて吹く南風が強くなり、風速が12m/sを超えたので、右舷船尾防舷材付近を岸壁の防舷材（ゴムフェンダ）に接触させながら、前進移動により着岸したところ、右舷船尾部が防舷材と防舷材の間に入って沖洲外岸壁と衝突した。 船長は、南風が強くなり始めた際、防波堤内で反転して港外に出ることは困難であると判断し、前進して船尾防舷材を岸壁防舷材に接触させて着岸することとした。
分析	本船は、南からの風力6の風に圧流されたことから、右舷船尾部が沖洲外岸壁に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、南からの風力6の風に圧流されたため、右舷船尾部が沖洲外岸壁に衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	船舶所有者は、本事故後、安全管理規程に定められた運航基準の範囲内であっても、詳細な気象情報を入手し、運航の可否判断を慎重に行い、突発的な気象の変化も想定した安全対策の充実を図ることとした。